



とらいあんどぐる



2021 年 1 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「生きる」

1月26日は、私の母の命日です。
そのため、毎年この時期の「とらいあんどぐる」は、母との思い出や母との別れに関連したテーマになってしまいます。

実は、私にとっては、原点にかえって、さまざまなことを見つめなおす、良い機会になっています。そして、その作業を自分に課しているところもあります。

9回目になりますが、どうかおつき

あください。

この9年間は、やはり長い長い年月でした。長い年月の中で、変化もありました。

最初の5年は、喪失感ばかりでした。思い出すと、母がいないという事実には押しつぶされ、悲しみの発作におそわれました。

自分の心の安定のために、母のことを思い出さないよう、ものすごく気をつけて暮らしていました。

細心の注意で思い出さないようにしていたのに、ふと目にしたものや耳に

したもので、思いがけず母のことを思い出し、涙があふれて何も手につかなくなることも、しばしばありました。

その時期を過ぎると、思い出すことができるようになりました。母を亡くして6年目くらいからだったと思います。

でも、その思い出し方は、私が想像していたものとは、かなり違っていました。

「あの時、ああだったなあ」と、過去のできごととして思い出すのではなく、日常、ふとした時に、母があらわれ、あたかも対話しているような気分になるのです。

一番多いのは、考えごとをしている時です。

私は普段から考えごとをすることがとても多いのですが、あれこれ考えている最中、誰かが勝手にしゃべりはじめます。最初は、あいづち程度なのに、気がつけばその人はしゃべり通しです。

私は、ぼんやりしながら、その人の

話をきいています。

「ああ、母らしい考え方だな・・・」と思います。不思議なことに私は、最初からそれが母であると分かっています。

私の中の母がしゃべっていて、私はそれを当然のことに受け止めているのです。

「ああ、こうして亡くなった人は、生きている人の中に生き続けるのか」

それに気づいてから、私は寂しくなりました。

私の中の母は生きています。

しかも、ものすごく元気です。

その証拠に、ものすごく雄弁なのです。「ちょっとだまっけて！」といたくなるくらい、ずっとしゃべっている時もあるくらいです。

今に私は、母にのっとられるのかもしれない。

そして私は、それが決してイヤではないのです。母の存在がもっともっと大きくなってほしいと思うくらいです。

時々、母が書いていた時代から長く「とらいあんぐる」を読んでもらっている方が、「今もカズコ先生が書いているのではないかと思うほど、アヤコ先生とカズコ先生は、文章や考え方が似ている」とおっしゃってくださいますが、私にとっては、最高のほめ言葉です。

私のしゃべり方や笑い方が母にそっくりだとおっしゃる方もいます。私はすでに、母にのっとられつつあるのでしょうか。

私は、いつの時点からか、あきらかに自分と母を同一視しています。

もう私の中で、どこまでが私で、どこからが母なのか、分からなくなっています。

こうした現象は、心理学的に説明ができることです。

難しい言い方になってしまいますが、「防衛機制としての同一視」です。

アクセスできない人と同一視することで、喪失感をやわらげ、安心感を得ようとする心の働きです。

昨年1年は、私の中の母が命について、たくさん語る1年になりました。

「新型コロナ」で、多くの人が思いがけず命を落とすことになり、誰にとっても、死がそれまでよりも身近に感じられた日々だったからかもしれません。

夏に、大切なスタッフの一人が、突然、旅立ってしまったからかもしれません。



命についての母の考え方は、少し独特であるように私には思えました。

たとえば母は、「余命が分かっても、本人に伝えるべきではない」という考えの人でした。

生前、「私の余命が分かっても、絶対に私に知らせないで。知られないよう努力して」と、何度もいいました。

理由は「知りたくないから」です。

その話をした当時、世の中で、新しい考え方として「本人に余命を知らせましょう。その人が残された時間を悔いなく過ごすために、それが必要です」という考え方が生まれたばかりでした。

今は比較的あたりまえになった本人への余命宣告は、それまでは全然あたりまえのものではなく、本人にショックを与えないように、家族にだけそつと耳打ちされるものでした。

母は、「本人に余命を伝えましょう」という新しい考え方を、頑として受け入れませんでした。

比較的、進歩的な考え方を好む人で

したので、私には意外でした。

ましてや母は、いつも死と隣り合わせに生きてきた人でした。20代で難病におかされ、歩くことも立つこともできなくなりました。生涯、車椅子から降りることができませんでした。同病の友人は、全員、若くして旅立ちました。

大きな病とたたかい、若い頃からずっと死を間近に見てきた母は、死をみすえながら生きてきたのかと想像していましたが、私の想像は、あたっていませんでした。

母は、こんなふうにいっていました。

「お別れに備えてきたからといって、悔いがないなんてこと、ある？ 準備の時間がたくさんあったって、心残りが無いなんてことは絶対にない」

それに対して、若かった私は反論したように記憶しています。

でも、母にのっとられつつある今の私は、思うのです。

母のいう通りかもしれない・・・。

「もうじゅうぶんな親孝行をした。
もう親に会えなくても良い」

「もうじゅうぶんに子どもをかわい
がった。もう子どもに会えなくても良
い」

そんなことはあり得ません。

私の中の母が、またしゃべっていま
す。

「人は、思いがけず亡くなることだ
ってある。たとえば事故のように。た
とえば伝染病のように。そういう場合
は、最後の瞬間まで自分の死を知らな
い。考えもしない。それで不都合があ
る？ それって、そんなに不幸なこと
かしら？」

ずっと死への準備をしいられてきた
からこそ、母はそんな心境になってい
たのでしょう。

私も、できることならその瞬間に備
えるのではなく、いつ前ぶれなくその
瞬間がおとずれても、「あ、そうなの？」
くらいの気安さで受け入れられるよう
にしたい。そんなふうに思うようにな

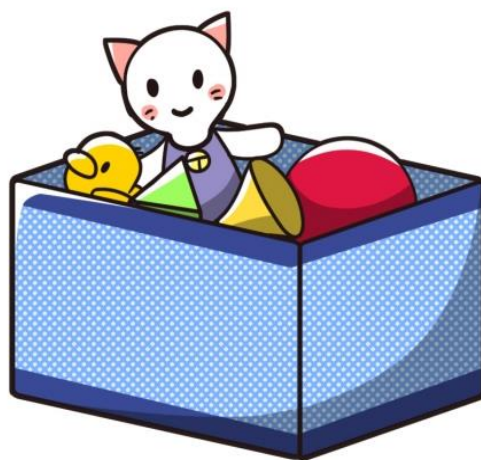
りました。

そのために、1日1日、悔いのない
時間を過ごしたいと、今は強く思うの
です。

形あるものは、いつか形を失います。
肉体も、例外ではありません。

だれもが、肉体を借り、それを返し
ます。

いつか肉体を返す時、「ああ、楽しか
った」といって、安堵にも似た深いた
め息をついてみたい。おもちゃ箱のフ
タが静かに閉じられるような、そんな
瞬間であってほしい。そんなふうに思
うのです。 (江口 彩子)



◆今年もよろしくお願ひいたします

年が改まりましたが、誰しもが予想していたように、コロナ禍は変わりません。

今年も、生徒さん、ご家族の皆さまには、多大なご理解とご協力をいただかなくてはならない1年になってしまうことでしょう。ご面倒をおかけしますが、どうか今年もよろしくお願ひいたします。

昨年は、過去に例のない事態の連続に、私どもも混乱し、右往左往しました。ですが、コロナとつきあって約1年。私どもも考える時間をたくさん持つことができました。今年も、昨年の経験を土台に、コロナについての新たな知見を適切に活かしながら、今まで以上に有効な感染防止を心がけていきたいと思っています。

今年度だけでも、「ピアノ・トライ」を皮切りに、「フォルテの会」、「ル・コンセール」、「ジュニコン・オーディション」と、イベントが続きます。それぞれを“コロナ仕様”でおこなうこととなります。くわしくは、本号のそれぞれの節でご説明させていただきます。例年と勝手が違うことで、ご不便をおかけしますが、重ねてよろしくお願ひいたします。

生徒さんやご家族の皆さまをとりまく状況が、それぞれであることも理解しております。レッスンやイベントに関することで、ご不安なことがおありの場合は、どうぞ担当のスタッフもしくは本部に、ご遠慮なくご相談ください〔本部：03-5966-7711〕。一律のルールではなく、その都度、柔軟に対応し、お一人お一人が安全にご不安なくレッスンにお通ひいただけますよう、工夫を重ねていきたいと思っています。



◆「ピアノ・トライ」にご参加をありがとうございました

初の試みである動画提出方式の「ピアノ・トライ」をおこなっております。

すでにメ切（1月15日）を過ぎてしまっていますが、今年はやり方が変わり、いろいろとご面倒をおかけしている申し訳なさがあり、機械的に締め切ることをせず、ご相談いただきました場合には、メ切を延ばして、お待ちしたいと思っております。

撮影予定のレッスン日にお休みしてしまった、撮影したはずのファイルを紛失してしまった、といった場合は、提出をあきらめてしまわないで、ぜひ本部にご連絡ください。

多くの方がご面倒をいとわず、ご参加くださいましたことに、心から感謝しています。

◆「ル・コンセール」コロナ仕様

「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんには、2月14日（日）もしくは2月21日（日）に、「ひびきホール」でおこなわれる「ル・コンセール」にご出演いただきます。ご参加費用はかかりません。

ここまでは、例年通りです。ですが、このたびの緊急事態宣言を受けまして、例年通りの「対面式 ル・コンセール」の他に、動画提出方式の「動画 ル・コンセール」を実施させていただきたいと思えます。

2つの方式があり、お好きな方をお選びいただくことができるとお考えください。

例年通りの「ル・コンセール」をご希望の場合は、「対面式」をお選びください。人が集まるイベントを避けたい、あるいは日程的に都合がつかない方は、「動画」をお選びになるのが良いと思えます。

① 「対面式 ル・コンセール」

例年通り、「ひびきホール」で開催します。ピアノはスタインウェイです。

少人数の部立てとし、入れ替え制とします。部ごとに換気をおこない、客席が密にならないよう注意し、最大限、感染防止につとめます。

② 「動画 ル・コンセール」

「ル・コンセール」用の動画を提出していただきます。会場に足をお運びいただく必要はありません。

限定公開の You Tube で、皆さんに観ていただきます。You Tube のURLは、「ル・コンセール」にご参加の生徒さんとご家族にだけお知らせしますので、一音会関係者以外の人に見られる心配はありません。期間限定の公開を予定しています。

提出動画は、できれば「ル・コンセール」出演を意識した動画をお願いしたいところですが、撮影がたいへんであれば、「ピアノ・トライ」にご提出くださった動画でもかまいません。

いずれかの形をお選びいただきたいと思います。ご不明な点は、お気軽におたずねください。



◆「フォルテの会」 コロナ仕様

「フォルテの会」は、声楽、ヴァイオリン、フルート、作曲、「うたくらぶ（合唱）」の発表会です。予定通り、2021年2月7日（日）に開催いたします。

ただし、非常事態宣言下にあることから、無観客で開催することといたしました。お客さまの笑顔を思い浮かべながら練習にはげんできた生徒さんを思いますと、断腸の思いです。

すでに、関係する生徒さん、ご家族の皆さまには、個々にお知らせをいたしました。演目ごと入れ替え制とし、客席はご家族の方のみ、とさせていただきます。映像は、限定公開の You Tube にアップします。

遠くに住むおじいちゃん、おばあちゃんに見せることができる等、悪いことばかりではありません。この時期、お友だちをお招きすることもはばかられますが、動画視聴であれば、お友だちに観てもらうこともできるでしょう。前向きに考え、ぜひ皆さまの思い出に残る会にしたいと思っています。

◆「新年キャンペーン」 コロナ仕様

例年、教室はこの時期、新年のキャンペーンをおこなっていますが、今年は外部の方向けのキャンペーンをおこなわないことといたしました。理由は、体験レッスンをご希望の方が多くいらっしゃると、教室が密になってしまうからです。

ただし、在会の生徒さん向けのキャンペーンは、例年通りおこないます。この点がややこしいので、ご注意ください。

すでに在籍していらっしゃる生徒さんが新しい科目を体験する場合、無料でご体験いただけます。ぜひこの機会に、お試してください。

在籍していらっしゃる生徒さんのごきょうだい体験される場合も、1回無料でご体験いただけます。

また、キャンペーン期間中にご家族がご入会いただきました場合、通常 15,000 円（税

抜)のご入会金を、10,000円(税抜)とさせていただきます。ご家族の中で3人目のご入会の場合は、ご入会金は不要です。

◆「ジュニコン・オーディション」コロナ仕様

先号でもお伝えしましたが、今年の3月に予定していた客員教授の先生方の来日はかなわなくなりました。

「ジュニコン・オーディション」を、リモートでおこないたいと思います。「ひびきホール」で無観客のオーディションをおこない、その際の演奏を撮影させていただきます。動画をプリドノフ先生ご夫妻が観て、審査をおこないます。

したがいまして、今年の「ジュニコン・オーディション」は、以下の日程で、プリドノフ先生ご夫妻を審査員とする形でおこないます。(動画提出方式ではありませんので、ご注意ください。足をお運びいただく必要があります。)

2021年3月14日(日) 午後1時～ 「ひびきホール」

2021年4月時点で、小学校4年生以上、高校3年生以下の生徒さんがエントリーできます。エントリーをお考えの生徒さんは、次の項の「エントリー要綱」をごらんの上、担当先生と相談しながら準備を進めてください。

「ジュニア・コンサート」は、2021年4月27日(火)夕方、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。



◆「ジュニコン・オーディション」要綱

「第15回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

以下が、エントリーの要綱です。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこないます。今年にかぎり、非公開とさせていただきます。入場できるのは、ご家族と担当スタッフのみです。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2021年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15,000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5,000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月27日（火）夕方、「ゆめりあホール」（西武池袋線・大泉学園駅前）でおこないます。



◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「新年度資料冊子」「一音会ガイドブック」「2021年度レッスン希望表」「ピアノキャンペーンのお知らせ」「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

すでに受けているレッスンのことはお分かりになっても、まだ受けたことのないレッスンについては、お分かりにならないことも多くあると思います。「一音会ガイドブック」には、この時期、皆さまからお受けすることの多いご質問を載せています。リトミックのこと、ソルフェージュのこと、アドバンスコースのこと・・・どうぞ、お時間の許す時にご覧になってみてください。

「ガイドブック」でカバーできていない内容もあると思います。そうした内容につきましては、直接、お問い合わせください。生徒さんお一人お一人のご事情をふまえて、ご相談に乗らせていただきたいと思います。

「レッスン希望表」は、新年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望を、あらためておうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。特に変更がない場合も、「変更なし」としてご提出ください。書き方が分からない場合は、遠慮なくおたずねください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフがあたるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

グループレッスンでは、年度の変わり目に、編成や担当が変わることがございます。

付記していただきましたご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、というご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただけますと助かります。用紙には、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思います。

昨年、最初の緊急事態宣言が出された時も、休校をお知らせしようにも連絡の取れないご家族が少なくありませんでした。その後、多くの方がメールアドレスを登録してくださり、ほっとしましたが、今もまだ登録率は8割程度です。ぜひメールアドレスの登録に、ご協力をよろしくお願いいたします。

希望表は、2月16日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区長崎3-19-1



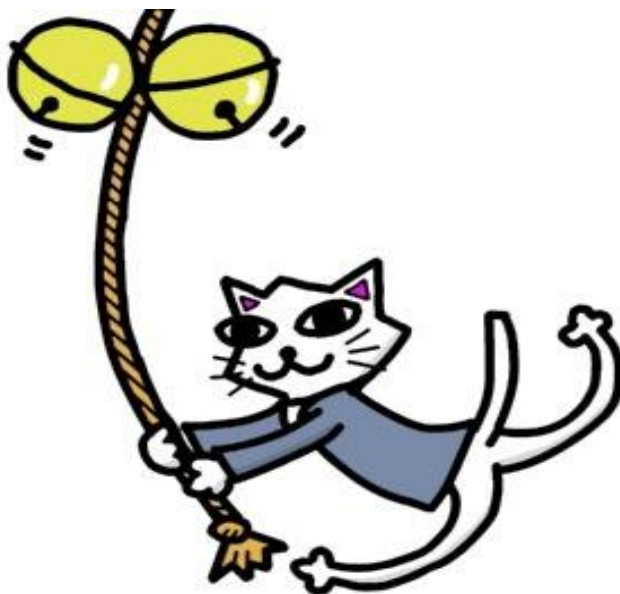
◆年間スケジュールをご確認ください

新年度の資料の中に、2021年度の年間スケジュールがございます。

どなたもご記憶だと思いますが、昨年は3月時点で、年間スケジュールがズタズタになりました。改訂版の、そのまた改訂版と、スケジュールを何度も更新しました。

皆さまのお目に触れたのは、2つ3つかもしれませんが、私どもは何度もスケジュールを立て、それを捨て、ということを繰り返し、数えきれないスケジュール案を生み、そしてそのほとんどを捨てました。

今年こそ、このスケジュールが生きのびてくれることを願います。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。